

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上里小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

次年度に向けて  
(3月)

年度末評価  
(2月)

反映

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>各学年で習得する知識・技能の定着に個人差がみられる。 <指導上の課題>児童の実態に応じた課題設定や、児童に対する課題の意識づけをふまえた学習活動の工夫。	⇒ 既習事項の振り返りや学習内容を活用・把握したり、読み経験を重ねたりすることができる学習活動の工夫を行う。また、業前活動の取組と連携させ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。それらの工夫や活用方法等を共有し、他教科に生かせるようにする。【令和6年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」に関わる領域において正答率が80%以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題>全国学力・学習状況調査において記述式の無解答率が高い。 <指導上の課題>児童の主体性を引き出す学習活動の工夫。課題に沿った振り返りの場の設定。	⇒ 思考を可視化して、表現し、考えを伝え合うことで、比較・検討する協力的な学びの場を設定する。語彙表「ことばのたね」を授業の学習活動に取り入れたり、宿題・家庭学習等で活用できるような事例を提示したりし、語彙力・表現力を高める。それらの工夫や活用方法等を共有し、他教科に生かせるようにする。【令和6年度さいたま市学習状況調査において、「思考・判断・表現」に関わる平均解答率が90%以上】

全国学力・学習状況調査  
<小6・中3>(4月~5月)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の使い方や使いに関する事項」について、特に「主語・述語の関係」「漢字」の問題に課題がみられた。基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、それらを日常において活用する力にしていける必要がある。算数では与えられた式の計算はできるが、立式になると問題文を読み取って計算式を組み立てることにつまづきがみられる。 言葉に触れる機会を増やしたり、文章の構成を意識させた学習活動をしたりする授業や式につながる語彙・言葉の理解を深めさせたりする授業を今後も継続していく。
思考・判断・表現	国語において、指定された条件で説明する問題では正答率が高いが、他の資料や考えを指定された条件で説明することに課題がみられる。また、算数において、立式にいたるまでの文章の読み取りや、必要な情報を選択する力を育む必要がある。他者の考えや資料をふまえて考えたり協力的な学びの時間を確保したりして、「なぜそうなるのか」を明確にしながら論理的に思考し、自分の考えを表現する活動を重視していく。

①結果分析(管理職・学年主任等)  
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	分析共有(児童生徒の実態把握)	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	漢字や計算等の学習活動の反復・習熟に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図った。 語彙表を低・中・高学年ごとに作成し、児童の実態に合わせた使用方法で授業に取り入れた。他教科にわたって活用できるように、教科書やタブレットのデスクトップに貼り付けたり、教室に常設をしたりする等の工夫をした。	変更なし
思考・判断・表現	B	教科横断的に、児童同士の意見交流や共同編集等の経験ができるような学習活動を取り入れた。資料を基に自分の意見をもったり、条件に合わせて表現したりする時間を確保できるようにした。 意見の共有や共同編集等を通して学習への意欲を引き出したり、自主的に活動に取り組む意識を高めたりして、思考したことを自分の言葉で表現できる力をさらに育みたい。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)